

スタンフォード便り (1) 生活環境編

竹村 浩昌***

* Postdoctoral Fellow, Department of Psychology, Stanford University

** 日本学術振興会 海外特別研究員

1. はじめに

以前東大の村上研究室に所属しており、現在 Stanford の Wandell Lab. で研究を行っている竹村と申します。今回は、私が現在所属している Stanford での研究生活のことについて、4回にわたって連載をさせていただくことになりました。お役に立つかはわかりませんが、今までの出来事を振り返って、まとめていきたいと思います。今回は生活環境などに関することについて執筆させていただこうと思います。

2. 生活の立ち上げ

私の現在所属しているスタンフォード大学は、米国カリフォルニア州のいわゆる「シリコンバレー」と呼ばれる一帯に位置しています。サンフランシスコの中心部からは車でおおよそ40分から1時間といった距離になります。サンフランシスコや、バークレーなどを含めたこの一帯は“Bay Area”と呼ばれ、大変生活環境の良いエリアとして知られています。夏は東京より涼しく、湿気が少なく、冬は東京より少し暖かいです。雨は冬期を除き、めったに降ることがありません。

このような大変気候に恵まれた土地ですが、スタンフォードに着いてから最初の2ヵ月から3ヵ月ぐらいの間は、生活の立ち上げがなかなか上手くいかず、苦勞した思い出があります。日本を出る際に、慈恵医大の増田先生より「生活の立ち上げには3ヵ月がかかると見た方がいい」と言うアドバイスをいただきましたが、この3ヵ月という生活の立ち上げ期間は、どんなに努力をしたとしても縮めるのはなかなか難し

いと思います。

まず、Bay Areaでは住宅を見つけるのがとても大変でした。このエリアは大変家賃が高く、Studioと呼ばれる一人暮らし用の物件でも、月に1,200ドル程度が相場です。ポストクや学生の限られた経済力で、良い物件を見つけるのは大変です。私の場合、最初はなかなか良い物件が見つからず、モーターやサブレット(短期に部屋を間借りすること)を転々としてきました。渡航して2ヵ月後に現在の物件(月\$815という破格の家賃)に移ることができ、ようやく落ち着いて生活することができました。

家が定まると次は車です。Bay Areaは、サンフランシスコの都心を除けば、公共交通機関があまり発達しておらず、車がないと生活は大変厳しいです。車のない間は、買い物に行けないため満足に自炊もできず、パーティーなどにも参加できないため、社会的に孤立しやすくなります。カリフォルニア州は、法的には国際免許証で長期間運転してはならないことになっており、現地で免許を取り直す必要があります。運転免許試験を管理しているのは、Department of Motor Vehicles、通称DMVと呼ばれる組織です。実技試験を受けるには予約が必要なのですが、まずインターネット予約システムが正常に作動しません。次に電話での予約ですが、自動音声の案内が出てきて、ネイティブの英語でない限り全く認識してくれません。ノンネイティブにはかなり厳しいシステムです。同僚のイスラエルから来ているポストクに相談すると、「認識できない言葉を何回も繰り返すと、勝手にオペレーターにつながる」と言うので、日本語でわめいてみたら、自動音声認識システムが

諦めたのか、人間のオペレーターにつながり、予約することができました。

さて肝心の実技試験ですが、1回目は落ちてしまい、2回目で何とか晴れて免許を得ることができました。結構苦労したのですが、この過程で周りの人達と仲良くなることができました。運転免許試験は、全員が通る道で、そして全員がDMVに対して何かしら言いたいことがある、ということで、実は飲み会の定番ネタの一つにもなり得ます。一度6人ぐらいでビールを飲んでいたらDMVの話になったのですが、理不尽な不合格エピソードが次々と披露されてなかなか盛り上がった記憶があります。最初の頃は、共通の話題を見つけるのに苦労したのですが、生活の立ち上げ一つ一つを乗り越えて行く過程でいろいろなことを経験して、共通の話題が増え、いろいろな人と仲良くできるようになったと思います。

3. 車が手に入ると

住居が定まり、車が手に入ると、Bay Areaの生活は非常に快適なものになります。まず、各地にあるスーパーマーケットやレストランなどにアクセスできるようになります。Stanfordから車で行ける範囲では、日系のスーパーマーケットは4件あり、日本のものを手に入れるには困りません。味噌が30種類ぐらい用意されており、最初に行ったときは感動しました。またこちらはFarmer's Marketといって、有機栽培をしている農家が野菜や果物を直売するイベントがたびたび開かれます。これらの農産物は品質も良いですし、生産者と直接雑談をしながら買い物をするのもなかなか楽しいです。

日本と比べると割高ではありますが、外食も良いと思います。移民が多いためか、各国料理のレストランがあり、日本のラーメン、ベトナムのフォー、インドのカレー、ミャンマーのお茶の葉サラダ、中東のフムス（ひよこ豆をペースト状にした料理）、スペインのパエリアなど、ありとあらゆる料理を楽しむことができます。最近では、同じDepartment of Psychology

にいるイタリア、シンガポール、カナダなどから来ている友達とレストラン巡りをしていません。

スポーツをする環境も良く、ジョギングには非常に良いコースがたくさんあります。そのほか、サイクリングやサーフィンなどのマリンスポーツにも絶好のスポットがたくさんあるようです。私は日本でやっていた卓球を続けていますが、アジア系の住人が多いためか、思いのほか競技者は多いです。

一ヵ月に一度の楽しみは、慈恵眼科の堀口先生に教えていただいた、Phil's Fish Marketというレストランに行くことです。ここはStanfordからだと車で1時間半程度かかるのですが、チョッピーノ（Cioppino；写真）というこの地域特有の料理で評判です。チョッピーノとは、オリーブオイルでいためたシーフード（イカ、エビ、ムール貝、ホタテ、白身魚など）を、タマネギと一緒にトマトベースのスープで煮込んだ料理で、これは大変に美味しいです。チョッピーノでおなかを満たした後は、Santa Cruzというビーチが美しい街までドライブして、埠頭でアザラシの親子を観察し、その後ビーチでビーチバレーやフリスビーなどをして遊びます。Santa Cruzは時間がゆっくり流れている場所で、研究で疲れた体をリラックスさせるにはとても良い場所です。

また、毎日晴れているので、バーベキューが行われることが多いです。この間は、ラボの院



写真 Bay Area特有の料理、チョッピーノ。イタリア系移民がはじめた料理といわれ、この地域以外ではほとんど見られません。

生の企画で、豚の丸焼きパーティーが行われました。ブロック塀をつみあげ、ブロック塀で囲んだスペースで火をおこします。その上に網ではさまれた豚を置き、何時間もかけて焼きます。StanfordのPsychologyはみないいい人たちばかりで、カリフォルニア名物のIndian Pale Aleというビールを片手に、談義に花が咲きます。最初のうちは苦勞したのですが、今は現

地の生活に馴染み、友達も増え、研究に打ち込める毎日が続いています。

謝 辞 初項にコメントいただいた澤山正貴さんに感謝します。

2013年8月6日

竹村 浩昌

htakemur@stanford.edu